

彙報

一 池田義祐名誉教授の御逝去

会告

京都大学名誉教授、文学博士、池田義祐先生は、平成四年三月二十八日に急性脳内出血のため逝去された。享年七十七歳。

先生は、大正四年（奇しくも同じ）三月二十八日、福井県坂井郡雄島村、浄土直宗大谷派西徳寺にご誕生。同地の三国中学校を経て大谷大学に入学（昭和六年）、文学部で社会学を専攻し、米田庄太郎教授の指導を受けられた。同十二年三月に卒業後、同大学院研究科に在籍され、翌年四月よりさらに京都帝国大学文学部哲学科選科において社会学の研究を深められた。その間臨時召集により軍隊に入隊。終戦による召集解除後、大谷大学文学部専任講師（同二十四年に助教となり社会学講座をご担当。同二十九年に京都大学文学部助教に迎えられ、同三十九年十一月に教授として以後、社会学講座をご担当。五十九年三月定年によりご退職、名誉教授の称号が授与された。その間、先生は社会学の研究教育に専念し、多数の後進を育成薫陶され、同時に日本社会学会理事と評議員、関西社会学会委員長として学会の充実発展のために尽力された。御退官後は大谷大学文学部教授となられ昭和六十年ご定年により退職された。

先生の研究業績は、大きく二つの領域に分かたれる。その第一は、比較的若い頃に主力を注がれた農村の、とくに通婚圏の実態調査にもとづく経験的研究であり、第

二は、のちに専念された理論研究、とりわけ支配に関する研究である。前者に属する論文としては「農村通婚考」「農村通婚圏の一資料」「対俗婚について」「通婚圏研究の社会学的意義」等がある。

経験的な実証研究を重視するご態度は、理論を主とする後の時期にも堅持された。それは、共編著『社会学の理論と応用』のほか、論文「最近の社会学における実態調査」や日本社会学会機関誌所載の「戦後日本社会学的総括と展望」と「総合社会学の構想の展開」、さらに「宗教社会学の研究」「講集団の社会学的性格」等によくうかがわれる。何れも主題を限定しながら社会学の課題が、その基本範疇である「社会的行為」「関係」「集団」に準拠して社会的現実把握を深めることにあるとする自説に基づく研究成果である。

先生の業績のうち、理論分野の主要論文は単著『社会学の根本問題』に収められた。それには「集団社会学の基本概念としての封鎖性・開放性」「社会的中間者論」「集合行動論序説」「権威の利他性」「社会学における社会関係論の展開」等の諸論文が収められている。同書と同じ表題の著書は既にジンメルと高田保馬という形式社会学の両権威によって書かれているが、先生の同書は、この両先生の深い影響のもとに研究を進めてこられた先生の野心的な思いがこめられている。さらに支配理論については、共編著『支配……社会的勢力の展開』と、学位論文をまとめた『支配関係の研究』がある。後者は、指導と権力を包括する支配の関係についての基礎理論の構築が企図された成果であって、この研究分野では、それまで比較的看過されてきたジンメルの理論の綿密な検討が加えられた。とりわけ支配の中間者の役割や支配変動に関する論述には先生の独自の見解が被歴されている。

先生は、日常的にも厳格な生活態度を持しながら、その同じ厳正実直さをもって研究と教育指導に専念された。京都哲学会のためにも格別ご尽力され、『哲学研究』にも「社会事象としての多数決」(四三—六)、「支配変動論」(五三—七)等が寄せられ、本学会の経営面にも互り充実と感展を強く念願してこられた。先生いまは亡く、痛惜の感ひとしお禁じえない。謹み御冥福を御祈り申し上げる。

平成五年四月十日

京都哲学会

## 二 京都哲学会委員の異動

京都哲学会現任委員のうち、平成五年三月末日をもって、平野俊二氏(停年退官のため)が退任された。また平成四年四月一日付をもって土井健司氏(キリスト教学講座助手着任のため)、平成五年四月一日付をもって中村俊春氏(美学美術史学講座助教授着任のため)が新たに委員に加わられた。

## 三 京都哲学会公開講演会記事

平成三年度及び平成四年度の京都哲学会公開講演会は十一月三日午後一時半から、京都大学文学部第七講義室において、左記の如く行われた。平成三年度

一、ヘラクレイトスのロゴスについて

京都大学助教授

内山勝利氏

一、中国古代歴史意識の一面

叢報

平成四年度

京都大学教 内山俊彦氏

一、近代日本における「教養の問題」

——その歴史社会的考察——

京都大学助教授 筒井清忠氏

一、近世初頭における自然哲学と自然科学

京都大学教 菌田坦氏

講演会は共に、数多くの会員の方々の出席を得、盛会であった。また、終了後、楽友会館において、多数の会員が講演者と晩餐を共にしつつ、討論、歓談のひとときをすごした。

## 四 外国哲学者来訪講演会記事

デヴィッド・チャールズ教授(オックスフォード大学)

平成三年七月十三日於イタリア会館

「アリストテレス『自然学』における目的因」

ジョフリー・ロイド教授(ケンブリッジ大学)

平成三年九月二十八日於京大会館

「古代ギリシアの身体観」

チャールズ・カーン教授(ペンシルベニア大学)

平成四年六月三日於文学部

「パルメニデスとプラトーン『ある』という語の用法をめぐって」

五 京都大学文学部哲学科卒業論文題目

——平成二年三月——

哲 学

- 内藤 可夫 ニーチェ、永劫回帰思想における時間
- 浜千代 治 彦 実在と力——ライブニッツの思想における
- 野嶋 政和 フッサールの現象学における志向性について
- 増田 玲一郎 「含意」の意味について
- 今井 逸郎 パース記号学における現象学の位置づけについて

西洋哲学史

- 福沢 康弘 カント『純粹理性批判』・感性論の研究
- 山岸 泰道 プラトン『パイドン』研究
- 木次 圭二 ソクラテスと法との同意——プラトン『クリトン』に関する一考察——
- 相原 正義 スピノザの「科学の哲学」

印度哲学史

- 佐野 広明 Yogasūtrabhāṣyavivarana の研究について

中国哲学史

- 藤田 健一 周敦頤の借理思想について
- 田中 忠治 殷の上帝について

心理学

- 蘆田 宏 運動残効の空間、時間周波数特性について
- 今村 雅彦 説得における情緒と内容吟味との検討
- 植木 綾 言語材料の記憶にメロディが及ぼす効果
- 奥 秀二 対人魅力が成功—失敗の帰属に及ぼす影響
- 長田 真美子 物語文法が説明文理解に及ぼす効果について
- 帯屋 博義 スポーツ集団におけるフォロワーのリーダー行動認知

- 岸野 博行 テキスト再構成時におけるテーマ呈示効果
- 芝田 浩実 組織状況特性とリーダーシップ・スタイルとの関連

- 中田 英延 動きのある事物を描いた児童画
- 細川 敦子 ことばと色イメージの関連について
- 松浦 ひろみ 子供の物語理解・産出について
- 和田 実也子 集団内における勢力保持者の他者に対する認知と行動

- 岡田 弥 先天性視覚障害児の空間的知識についての考察

- 益田 圭 情報伝達場面における偏見の検討

倫理学

- 井上 勉 ニーチェの時代批判について
- 加嶋 治 ウィトゲンシュタインの超越論
- 丸岡 潔 カントにおける感性と悟性について
- 石原明子 R・D・レインの対人関係論——「自己と他者」を中心として——

美学美術史学

- 大下英和 「演劇・空間・都市」
- 岡田知子 「粉河寺縁起絵巻」について
- 鈴木 潤 現代におけるリズム概念の拡大
- 鈴木幸人 酒井抱一の作風展開
- 礪波恵昭 運慶の後期の様式について
- 人見有里香 現代における写真と絵画の親密な関係
- 前川 修 W・ベンヤミンの言語論
- 水野千依 造形芸術における空間
- 山口直美 岩佐又兵衛勝以について
- 長舟洋司 ドガにおける近代絵画の課題
- 藤本知子 マネの裸体画について
- 西田美和子 ヒエロニムス・ボッスの諸作品におけるヘキリストの受難
- 平瀬礼太 フェノロサの芸術観の転換について
- 山本淳夫 唐招提寺旧講堂木彫群

社会学

- 吉川 善兼 J・W・ウオーターハウスの作品研究
- 磯 尚義 音楽化社会論の検討
- 井上 孝子 シュッツ社会学における多元的リアリティに  
関する一考察
- 宇城 輝人 権力理論の社会学的考察
- 北 垣 徹 デュルケームにおける「象徴」と「構造」
- 高野 英明 M・ウェーバーの社会科学方法論の検討
- 佐藤 哲彦 エスノメソドロジーにおける日常性の一考察
- 中川 誠 ハーバマスの「真理理論」についての考察
- 中村 昌樹 欲望と消費についての社会学的考察
- 西川 和子 精神病の社会学理論の再検討
- 英 尚 枝 差別問題をめぐる社会学的視座の考察
- 藤井 一明 デュルケームの社会学主義に関する一考察
- 水垣 源太郎 ウェーバーの宗教社会学の方法論的検討
- 山川 博達 広告のコミュニケーション効果についての一  
考察
- 山城 正也 子どもの社会化にはたす言語機能の検討
- 吉田 大介 戦後日本の大衆文化の一考察
- 渡辺 達治 会話分析についての社会学的考察
- 伊藤 敬介 マージナル・マン理論の再検討
- 大上 信久 デュルケームの宗教社会学
- 大森 菜穂美 都市における多様性の検討——J・ジェイコブ

スの都市論

磯木正和 マクルーハンのメディア論の検討

中村寧 個人主義思想の社会学的考察

藤井満 定住難民の社会学的研究

三好雅彦 日本のメノナイト派の社会意識の実証的研究

和田元子 社会学観点からみた芸術活動の考察——マー  
トンの理論を中心として

吉富裕倫 社会的性格についての再検討

中村優子 ラベリング理論に関する考察

宗 教 学

岡村あき子 西洋並びにオリエントの古代末期における終  
末論の姿

深水淳一 ニーチェに至る生の展開——此岸・彼岸をこえ  
て

水流尚志 ハイデガーの『存在と時間』第三章「世界の  
世界性の分析」を中心とした意味連関の研究

松本直樹 M・ハイデッガー『有と時』から有の構  
造における先駆的覚悟性の問題についての考  
察

京極仁志 ニーチェにおける仮象の世界と権力への意志  
について

吉村園子 自己と超越者——ヤスパースにおける両者の  
関係——

芦津直人 ニーチェ『ツアラトゥストラ』における時間  
の問題

阿部 聡 ジンメルにおける生の統一に現れた個性化  
と時間について

伊佐治 剛 G・バタイユの「宗教の理論」とアフリカの  
段階

尾形嘉寿 アメリカ黒人音楽と宗教

大岡厚子 古代仏教における世界と自然と存在のあり方

乙川文英 六師外道の研究

塩見佳正 Dharmaskandha について

宮崎 泉 『中観心論』第三章について

波部隆彦 ファンダメンタリズムの思想について

六 京都大学大学院文学研究科(哲学系)

修士課程修了論文題目

——平成二年三月——

哲学

黄 徹 ファッサールにおける「純粹心理学」と「超越  
論的現象学」の関係

山本 與志隆 存在の問いと存在の真理について——ハイデ

ガーの『存在と時間』の挫折をめぐって——

出口 康 夫 カントの超越論的観念論について

橋本 康二 ヒュームの知識論

倫理学

松王 政 浩 ライブニッツの最善観

山下 智 志 経験と持続——ベルクソンの時間理論に関する一考察——

中国哲学史

白杉 悦 雄 黄帝内経の研究——黄帝派と岐伯派——

西洋哲学史

藤本 温 《receptum est in recipiente secundum modum recipientis》——トマスにおける認識

する魂について——

山脇 雅 夫 ヘーゲル『精神の現象学』における概念的自

己の生成と展開

木下 昌 己 「不幸」な哲学者——プラトン『国家』にお

ける正義と幸福——

宗 教 学

杉村 靖 彦 悪と超越——ポール・リクール「意志の哲学」

の根本問題——

仏 教 学

李 在 浩 Ian skya 宗義書の経量中観自立派章につい

て

基 督 教 学

土井 健 司 神を映し出す鏡——ニュッサのグレゴリオス

における「鏡」について

心 理 学

青木 竜 生 連合学習事態において条件刺激が獲得する情

報の内容

竹内 龍 人 運動知覚における時間的文脈効果の検討

中島 欣 哉 推論の形式性について——ルールのない4枚

カード問題——

社 会 学

大川 清 文 ウェーバー近代化論の再検討

美 学 美 術 史 学

秋庭 史 典 カント『判断力批判』における「形式」の概

念をめぐって

西川 珠 代 「動機」についての社会学的考察——C. W.

ミルズの「動機の語彙」を手がかりにして

哲学

下野 健児 池大雅の書について

田島 達也 狩野探幽の花鳥画

福井 睦美 高台寺霊屋の蒔絵装飾について

山崎 美樹 レンブラントとイタリア・ルネッサンス美術

七 博士後期課程学修者氏名

——平成二年三月——

哲学……準田靖、竹山重光、田中茂樹、浜岡剛、鬼界彰夫

倫理学……亀喜 信、柳沢信吾

中国哲学史……仲畑 信

西洋哲学史……上枝美典、菊地伸二、三浦要、高橋洋介

宗教学……清水茂雄、松井吉康、吉米進一、岩田文昭

キリスト教学……久山道彦、畑宏枝

心理学……上田和夫、西田真也

社会学……田岡泰子、棚瀬慈郎

美学美術史学……加須屋 誠

八 京都大学文学部哲学科講義題目

——平成五年度——

※二回生が履修できる専門科目

〔共〕大学院と共通

〔院〕大学院のみ

講義 助教授 伊藤 邦武 ※  
研究 教授 木曾 好能 〔共〕  
ヒュームの哲学

総合部 磯江 景孜 一八世紀ドイツ哲学思想の研究  
人間・環境学 教授 〔共〕

人間・環境学 教授 安井 邦夫 現代論理学 〔共〕

兵庫県立看護大学 教授 石井 誠士 生命 〔共〕

立看護大学 教授 奥 正博 (倫理学専攻の欄参照) 〔共〕  
Rosenthal (ed.), *The Nature of Mind*, Oxford UP, 1991

演習 教授 木曾 好能  
助手 浜野 研三 〔共〕  
*Writings*, Wiener (ed.), Peirce: Selected Dover, 1966

助教 伊藤 邦武 〔共〕

人間・環境学 教授 竹市 明弘 〔共〕  
*Heidegger, Sein und Zeit*

研究科 教授 木曾 栄夫 〔共〕  
*Kant, Kritik der reinen Vernunft*

講師 小林 道夫 〔共〕  
*Descartes, Les principes de la philosophie*

講師 小林 道夫 〔共〕



インド哲学史

講義教授	徳永 宗雄	インド思想史	※	助教授	池田 秀三	『潜夫論』研究	[共]
研究教授	徳永 宗雄	医学文献に見られる哲学思想	[共]	人文研	吉川 忠夫	唐中期の士人たち	[共]
				講 師	坂出 祥神	術教思想の諸問題	[共]
				講 師	戸川 芳郎	中国経学史の諸問題	[共]
				演 習	池田 秀三	『毛詩正義』	[共]

人文研 教授 井狩 弥介 ヴァードゥーラ・シュラウタ スートラ研究 [共]

講 師 後藤 敏文 リグヴェーダ讃歌選 [共]

講 師 近藤 治 ムガル帝国史の研究 [共]

講 師 正信 公章 ヴェーダーンタ研究 [共]

演 習 教授 徳永 宗雄 Mahabharata, Virataparvan [共]

助教授 小林 信彦 サンスクリット演習Ⅰ

人文研 助教授 藤井 正人 Upanisad [共]

講 師 矢野 道雄 Brihatsamhita [共]

講義Ⅰ 教授 徳永 宗雄 Erich Frauwallner, Geschichte der indischen Philosophie, II. Band: Die naturphilosophischen Schulen und das Vaisësika-System ※

講義Ⅱ 教授 徳永 宗雄 Hermann Oldenberg, Kleine Schriften Ⅱ [共]

中国哲学史

中国哲学史

講義教授	内山 俊彦	中国哲学史概説	※	研究	松井 潤一		[共]
研究教授	内山 俊彦	中国古代の唯物論思想	[共]	助教授	松井 潤一		[共]

講 師 池田 秀三 『潜夫論』研究 [共]

講 師 坂出 祥神 術教思想の諸問題 [共]

講 師 戸川 芳郎 中国経学史の諸問題 [共]

講 師 池田 秀三 『毛詩正義』 [共]

演 習 助教授 池田 秀三 『毛詩正義』 [共]

演 習 助教授 池田 秀三 『毛詩正義』 [共]

演 習 助教授 池田 秀三 『毛詩正義』 [共]

演 習 助教授 池田 秀三 『毛詩正義』 [共]

演 習 助教授 池田 秀三 『毛詩正義』 [共]

演 習 助教授 池田 秀三 『毛詩正義』 [共]

演 習 助教授 池田 秀三 『毛詩正義』 [共]

演 習 助教授 池田 秀三 『毛詩正義』 [共]

演 習 助教授 池田 秀三 『毛詩正義』 [共]

演 習 助教授 池田 秀三 『毛詩正義』 [共]

演 習 助教授 池田 秀三 『毛詩正義』 [共]

演 習 助教授 池田 秀三 『毛詩正義』 [共]

演 習 助教授 池田 秀三 『毛詩正義』 [共]

演 習 助教授 池田 秀三 『毛詩正義』 [共]

演 習 助教授 池田 秀三 『毛詩正義』 [共]

演 習 助教授 池田 秀三 『毛詩正義』 [共]

研究	総合人 間学部 教授	江島 義道	視知覚情報論	[共]	演習	教授	清水御代明	現代心理学の諸問題	[院]
"	総合人 間学部 助教授	杉方 俊夫	集団システム論		倫理学	教授	内井 惣七	倫理学概論	※
"	講師	菅 千索	心理学研究における統計的方法 の理論と応用	[共]	研究	教授	内井 惣七	哲学・倫理学のための形式的訓 練	[共]
"	講師	二木 宏明	脳と認知行動	[共]	"	講師	山内友三郎	R・M・ヘアと現代の道德哲学	[共]
"	講師	森清 善行	動作の文法	[共]	"	講師	奥 雅博	後期ウイトゲンシュタイン研究	[共]
"	講師	福沢 周亮	言語教育心理学の諸問題	[共]	"	講師	有福 孝岳	Kant: Kritik der Urteils- kraft	[共]
"	講師	無藤 隆	発達心理学特論	[共]	演習Ⅰ	総合人 間学部 教授	美濃 正	J. R. Searle: Intentionality An Essay in the Philosophy of Mind	[共]
演習	助教授	乾 敏郎	心理学演習Ⅰ		"	講師	小林 道夫	(哲学専攻の欄参照)	[共]
"	教授	清水御代明	心理学演習Ⅱ		"	教授	内井 惣七	倫理学の諸問題	[共]
講読	助手	山下 博志	英語文献講読		演習Ⅱ	教授	内井 惣七	(西洋哲学史専攻の欄参照)	[共]
実習Ⅰ	教授	清水御代明	心理学基礎実験	※	講読	助手	倉田 隆	(哲学専攻の欄参照)	[共]
実習Ⅱ	講師	千原 孝司	統計基礎実習	※	"	助手	浜野 研三	(哲学専攻の欄参照)	※
実習Ⅲ	教授	清水御代明	心理学特殊実験		美学美術史学				
	助教授	荳阪 直行			講義	助教授	岩城 見一	芸術と自然(2)	※
	助教授	乾 敏郎			"	教授	清水 善三	日本美術史概説	※
	総合人 間学部 助教授	杉方 俊夫	社会的行動論(グループ・ダイ ナミックス、社会心理学の最近 の研究について検討する。)	[院]					

研究 教授 清水 善三 日本彫刻史研究の最前線〔共〕

教授 佐々木丞平 絵画による写意性と写実性〔共〕

助教授 岩城 見一 思弁的美学から実証的美学へ(2)〔共〕

助教授 中村 俊春 一七世紀フランドル絵画史〔共〕

研究 総合人 岡田 温司 「マニエラ」からバロックへ〔共〕

助教授 岡田 温司 「マニエラ」からバロックへ〔共〕

助教授 曾布川 寛 中国絵画史の研究〔共〕

助教授 大浦 康介 思弁的芸術理論と「モダニズム」〔共〕

講 師 太田 喬夫 現象学的美学の歴史〔共〕

講 師 篠原 資明 近代と芸術〔共〕

講 師 吉田 友之 絵巻物研究〔共〕

講 師 辻 成史 西洋写本挿絵研究〔共〕

講 師 潮江 宏三 ウィリアム・ブレイクの芸術〔共〕

演習Ⅰ 教授 清水 善三 美学美術史学の諸問題

助教授 岩城 見一

助教授 中村 俊春

教授 清水 善三

教授 佐々木丞平

助教授 中村 俊春

助手 下野 健児

講 読 助教授 中村 俊春

Oskar Batschmann: Einführung in die kunstgeschichtliche Hermeneutik. Darmst adt 1986.〔共〕

講 師 加藤 哲弘

Michael Podro, The Critical Historians of Art; Norman Bryson (ed.), Calligram: Essays in New Art History from France.〔共〕

演習Ⅰ 教授 清水 善三

助教授 佐々木丞平

助教授 岩城 見一

助教授 中村 俊春

演習Ⅱ 教授 清水 善三 美術史学の实地指導〔院〕

助教授 佐々木丞平

助教授 中村 俊春

助教授 下野 健児

助 手 下野 健児

講 読 助 手 下野 健児 日本・東洋美術史料選読

講 義 助教授 筒井 清忠 社会学概論 ※

研究 教授 宝月 誠 社会人間学 ※

助教授 松田 素二 民族論〔共〕

助教授 高橋 三郎 価値感と性格〔共〕

総合人 米山 俊直 地域社会と生活史〔共〕

助教授 中村 俊春

総合人 米山 俊直

助教授 中村 俊春

助教授 中村 俊春

助教授 中村 俊春

助教授 中村 俊春

助教授 中村 俊春

総合人 高沢 淳夫 社会現象のモデル化 [共]

間学部 助教授 高橋 由典 行為と感情 [共]

総合人 高橋 由典 行為と感情 [共]

間学部 助教授 高橋 由典 行為と感情 [共]

人文研 助教授 富永 茂樹 中間集団論の起源・Ⅱ [共]

講 師 松本 通晴 農村・移住・都市 [共]

講 師 山口 節郎 「支配の正当化」問題 [共]

講 師 柏岡 富英 ナンヨナリズムの諸理論 [共]

講 師 園田 英弘 歴史社会学の方法 [共]

講 師 青木 保 文化とナンヨナリズム [共]

研究 講師 青木 保 文化とナンヨナリズム [共]

演習 教授 宝月 誠 演習(1)社会人間学の諸問題 [共]

演習 教授 宝月 誠 演習(2)社会人間学の諸問題 [共]

教授 宝月 誠 演習(1)歴史社会学の諸問題 [共]

助教授 筒井 清忠 演習(2)歴史社会学の諸問題 [共]

助教授 筒井 清忠 演習(1)社会人間学の視点(2) [共]

助教授 松田 素二 演習(2)社会人間学の視点(2) [共]

助教授 松田 素二 演習(1)社会人間学の視点(2) [共]

東南ア 助教授 坪内 良博 家族・人口・コミュニティの比較社会学 [共]

研究 助教授 坪内 良博 家族・人口・コミュニティの比較社会学 [共]

講 読 助 手 吉田 純 英語講読 (Ian Craib, *Modern Social Theory*) [共]

助 手 小川 伸彦 仏書講読 (R. Boudon, F. Bourricaud: *Dictionnaire Critique de la Sociologie*) [共]

教授 宝月 誠 社会理論の諸問題 [院]

助教授 筒井 清忠 歳史社会学の理論と方法 [院]

助教授 松田 素二 民族文化の諸問題 [院]

東南ア 助教授 前田 成文 伝統の比較文化論 [院]

研究 助教授 前田 成文 伝統の比較文化論 [院]

講 師 新 陸人 比較社会の方法 [院]

併 任 坪内 良博 比較社会学の基本問題 [院]

演習 教授 坪内 良博 比較社会学の基本問題 [院]

宗 教 学 長谷 正当 宗教学概論 ※ [共]

講 義 教授 長谷 正当 宗教学概論 ※ [共]

研究 教授 長谷 正当 認識と欲望 [共]

助教授 藤田 正勝 宗教と倫理 [共]

教授 水垣 渉 (キリスト教学専攻の欄参照) [共]

総合人 藪田 稔 宗教儀礼論 [共]

間学部 助教授 倉沢 行洋 宗教と芸術 [共]

講 師 長谷 正当 P.Tillich: Systematic Theology [共]

助教授 長谷 正当 P.Tillich: Systematic Theology [共]

助教授 藤田 正勝 Schelling: Über das Wesen der menschlichen Freiheit [共]

講 師 西村浩太郎 J. Lagneau: De l'existence de Dieu [共]

講 師 稲葉 稔 (西洋哲学史の欄参照) [共]

講 読 講 師 林 伸一郎

B. Pascal: *Pensées Opuscules*  
Brunschwig 版 (Entrelien  
avec M. de Sacy, De l'esprit  
géométrique 他)

講 読 助 手 栗原 尚道

講読② E. Frauwallner, *Die Philosophie des Buddhismus* [共]

講 師 芦名 定道

(キリスト教学専攻の欄参照)

講 師 武内 紹人

初等梵語仏典選集  
サンスクリット初級文法  
チベット語(初級) ※

助 授 長谷 正当  
藤田 正勝

宗教の諸問題 [院]

基督教学

仏 教 学

講 義 教 授 御 牧 克 己

インド・チベット仏教思想史 ※

研 究 教 授 御 牧 克 己

チベットに伝わった唯識思想研究 [共]

人 文 研 究 荒 牧 典 俊

中国仏教思想史序説 [共]

講 師 中 谷 英 明

サンスクリット仏教詩研究 [共]

人 文 研 究 井 狩 弥 介

(インド哲学史専攻の欄参照) [共]

講 師 一 郷 正 道

後期中観思想研究 [共]

演 習 教 授 御 牧 克 己

梵語仏典選集 [共]

講 師 榎 本 文 雄

パーリ語文選 [共]

人 文 研 究 船 山 徹

Kanakesila 作  
[atvvasangrahaṇāṅgikā] 序論 [共]

講 読 教 授 御 牧 克 己

講読① E. Lamotte, *Histoire du bouddhisme indien* [共]

講 義 教 授 水 垣 涉

「原始キリスト教」 ※  
信仰・言語・思想 [共]

研 究 教 授 水 垣 涉

(宗教学専攻の欄参照) [共]

講 師 片 柳 栄 一

人間的自由をめぐる一その  
歴史的宗教哲学的考察 [共]

演 習 教 授 水 垣 涉

Clemens Alexandrinus:  
Stromata [共]

講 師 勝 村 弘 也

古典ハンブライ語文法及び  
「エレンシヤ書」講読 [共]

講 師 宮 庄 哲 夫

M. Luther: Von den guten  
Werken [共]

講 師 芦 名 定 道

H. Richard Niebuhr: Faith  
on Earth [共]

講 師 小 池 三 郎

(西洋哲学史専攻の欄参照) [共]

講 師 宮 谷 宣 史

(西洋哲学史専攻の欄参照) [共]

講 読 助 手 土 井 健 司

「ㄇㄨㄛㄛ福音書」原典講読  
(Novum Testamentum  
Graece, ed. E. Nestle, K. Aland,  
Stuttgart, 26. Aufl., 1979)

## 九 「日本学術会議だより」 内容紹介

第十七号平成二年五月

〔総見出し〕「地球圏—生物圏国際協同共同計画（IGBP）の実施について（勧告）」を採択

〔内容項目〕人間活動と地球環境に関する特別委員会報告—人間活動と地球環境について、経営工学研究連絡委員会報告—経営工学の体系化に向けて、生物物理学研究連絡委員会報告—生物物理学の新しい研究体制について

第十八号平成二年八月

〔総見出し〕「第15期日本学術会議会員の選出手続きが始まる」

〔内容項目〕科学技術庁大型放射光施設建設計画について、大学における研究環境、特に研究実験室のスペースについて

第十九号平成二年十一月

〔総見出し〕「創薬基礎科学研究の推進について（勧告）」を採択

〔内容項目〕外国人研究者・大学院留学生受入れに関する問題点と改善の方策について、日本における解剖学の教育と研究（現状の考察と将来への展望）

第二十号平成三年二月

〔総見出し〕「公開講演会成功裡に開催さる」

〔内容項目〕平成二年度二国間学術交流事業、平成三年度

共同主催国催会議、経営学教育改善のために、統計学研究教育体制の整備のための具体的方策について、動物実験を支援する人材育成について

第二十一号平成三年六月

〔総見出し〕「第14期最後の総会終わる」

〔内容項目〕大学等における人文・社会科学系の研究基盤の整備について（勧告）、公文書館の拡充と公文書等の保存利用体制の確立について（要望）、人間活動と地球環境に関する日本学術会議の見解、脳死をめぐる問題に関するまとめ

第二十二号平成三年八月

〔総見出し〕「第15期最初の総会開催される」

〔内容項目〕第15期日本学術会議役員、平成四年度共同主催国際会議、第15期日本学術会議会員の概要について

## 十 森口美都男名譽教授の御逝去

### 会告

京都大学名誉教授、森口美都男先生はつくば市にて御療養中のところ、一九九三年三月十八日未明逝去された。享年七十一歳。

先生は一九二二年六月十二日パリに生れ、京都府立第一中学校および第一高等学校を経て、一九四二年に京都帝国大学文学部に入学された。その後、約一年半の軍隊服務を挟んで一九四七年に文学部哲学科を御卒業し、京都大学大

学院特別研究生、大阪市立大学講師、助教を経て、一九六五年京都大学文学部助教に任ぜられ、一九六七年五月に教授に昇任された。先生は、京都大学に着任後、一九八五年に退官されるまで、二十年の長きにわたって倫理学講座を担当されたが、いわゆる「学園紛争」の時代に不幸な負傷により御健康を損ねられて以後も、最大限の努力を重ねて誠実に教育研究の義務を果たされた。

先生の主要な御業績は、『哲学論集』三卷（晃洋書房）その他にまとめられているが、堪能な語学力、明敏な頭脳、および繊細な感受性に支えられた論考は、カントを中心として、ルター、ロック、ヒューム、ルソー、ベルクソンといった主要な思想家だけでなく、シモース・ヴェイユ、オルテガ・イ・ガセトなど、当時にあつては取り上げられることの少なかった思想家にも及び、独自の境地を開拓された。『哲学論集』第二卷に所収のいくつかの論考からは、先生の思索がある宗教的次元に到達したことが窺われる。最晩年には、聖書の数か国語の翻訳を点検、検討される日々であったの由である。

ここに謹んで、在りし日の先生を偲び心からご冥福をお祈り申し上げます。

平成五年四月

京都哲学会

## 十一 平野俊二名誉教授の御逝去

### 会 告

京都大学名誉教授、文学博士平野俊二先生は、一九九三

年四月一八日、利根山病院において呼吸不全のため逝去されました。享年六四歳。

先生は、一九五〇年京都大学文学部哲学科を卒業、一年間京都大学教養部の助手を勤められた後、八木晃助教授の東京大学転任に従って東京大学大学院人文科学研究科に進学、その後、東京大学文学部助手、大阪市立大学文学部講師、同助教、京都大学文学部助教を経て、一九八〇年より同教授として心理学第一講座を担当され、一九九三年三月定年により退官されました。その間、先生は心理学の研究教育に専念され、多くの後進を育成されるとともに、京都大学評議員などの役職について大学の運営にも貢献されました。

先生の主要な研究領域は、動物の行動とその生理心理学で、ことに記憶の固定に関する海馬の機能について、脳内発作による一時的局所攪乱や脳内刺激、脳内活動の記録など、最先端の技法を駆使した精緻な実験によって、学界に大きい貢献をなさいました。先生の、理論的問題に対する深い洞察と、黙々と実験に励まれた後姿は、後進に深い感銘を与え、確かな指針となってきました。先生の論文は、「哲学研究」をはじめ国内外の専門誌に掲載されており、その一部は「記憶痕跡の探求」（平野俊二先生退官記念事業会）に収められています。

先生は実験心理学者としての道を踏み外されることはありませんでしたが、哲学にはなみなみならぬ関心と敬意を払われ、「文学部専攻案内」の「心理学」の項には、「大学院では、各自のテーマをさらに発展させ、その営為を通し

て母なる哲学に改めて問いかける幅の広さを期待したい」と記しております。

先生は、二年前に胸部の大手術を受けられましたが、その後順調に恢復され、激務をこなしておられました。京都大学御退官の翌日四月一日に吐血して入院され、その一七日後に御逝去という、責任感の強い平野先生らしい御最期でした。謹んで先生の御冥福をお祈り申し上げます。

平成五年七月九日

京都哲学会

## 十二 『哲学研究』の巻号記載の変更について

従来『哲学研究』は十二号をもって一巻としてまいりましたが、近年の発行事情を考慮した結果、従来の方式に特別な意味が認められないとの結論に至り、平成五年度の委員会に於いて本号より創刊時よりの通しの号数のみを記載することに決定致しました。